

THE Y'S MEN'S CLUB OF NASU

NETWORK NASU

CHARTERED 1995



那須ワイズメンズク

2024~2025年度 No.299

11月報

那須クラブ会長 主題

ユースと共にミッションを



強調月間：BF

iGo

STEP

今月の聖句 ヨハネによる福音書17：21

父よ、あなたがわたしの内におられ、わたしがあなたの内にいるように、すべての人を一つにしてください。彼らもわたしたちの内にいるようにしてください。…後略

11月第1例会

日時：11月30日(土)午後6時~

場所：日本基督教団 西那須野教会

11月例会は、8月の例会でお話をいただく予定でした、古川勢子さんをゲストにお招きして、西那須野地区の子ども食堂のいつてのお話をお伺いします。

私たちにとっては、新しい視点を与えていただけるのではと思います。ユースリーダーにも声をかけています。多くの方々の参加をお願いします。

司会 田村 修也 会長

開会点鐘・挨拶

会長 田村 修也

ワイズソング斉唱

ワイズの信条の斉唱

聖書朗読・祈祷

西那須野教会 牧師 潘 炯旭

ゲスト・ビジター紹介

会長

自己紹介

食前祈祷

田村 暁美 メネット

会食

講話 西那須野における子ども食堂について

古川 勢子 姉(西那須野教会役員)

質疑応答

報告事項 YMCA・ワイズ

YMCAの歌

閉会挨拶・点鐘

会長 田村 修也

会費 メン・メネット 1,000円 ゲストは無料

2024~2025年度 主題

国際会長：(IP) A・シャナヴァスカーン (インド)

「より良い世界のために、共に」

アジア太平洋地域会長：(AP) ジョウン・ウォン (香港)

「大きなインパクトを起こそう」

東日本区理事：(RD) 山田 公平 (宇都宮)

「ワイズの方向性を見極める」

北東部長：大久保 知宏 (宇都宮)

「戦略2032を意識して」

クラブ役員

会長：田村 修也

副会長：村田 榮

書記：藤生 強

会計：村田 榮・鈴木 保江

担当主事：塩澤 達俊

ブリテン：田村 修也・村田 榮

10月例会データー (出席率：100%)

メンバー5名、メネット2名、ゲスト10名、メーキャップ2名

在籍者 7名

11月 Happy Birthday

11/7 原田 明子メン

12月例会 (クリスマス礼拝・祝会)

日時：12月14日(土)午後6時~

場所：西那須野教会

1月第2例会 (役員会)

日時：12月27日(金)午後4時30分~

場所：田村会長宅

1月第1例会 (新年例会)

日時：1月18日(土)

場所：おかしげ

巻 頭 言

藤生 強

① 私の勤務するYMCA特養マイホームきよはらの新型コロナ状況報告第10弾

前は2023年度末までの報告でしたので、今回は2024年度前半になります。6月末に感染クラスターが発生しました。その頃は暑い日が続いており、体温の高い入居者について『熱中症かな』と考え受診したところ、新型コロナウイルスへの感染が確認されました。早急に他の入居者や介護職員に抗原検査を行ったところ新型コロナへの感染が多数確認され、ゾーニングなど感染対策を行い、約2週間で終息しました。

世の中的には“新型コロナは終わった、感じがありますが、高齢者にとってはまだまだ脅威であることは変わりません。これから新型コロナに加えてインフルエンザや感染性胃腸炎（ノロウイルスなど）が流行る季節に入りました。まだまだ安心できる状況ではありません。

② 私の勤務するYMCA特養マイホームきよはらの『国際色豊かな』様子

YMCA特養マイホームきよはらでは、2019年12月より技能実習生を受け入れ始め、現在は3か国から14名の技能実習生及び特定技能が介護職員として働いています。彼らは研修を受けて来日しているため、簡単な日本語になりますが会話も読みも出来ます。さすがに書くことは難しいようですが、介護記録に関しては介護ソフトに翻訳機能が備わっているので、自国の言葉で音声入力にて記録を取っています。やはり高い目的意識をもって日本に来ているため、真面目に意欲的に勤務についています。

この制度開始前から勤務している外国人職員も多数おり、現在は技能実習生及び特定技能を含め7ヶ国から23名が高齢福祉の仕事についています。“国際色豊かなYMCA”をまさに体現しています。



10月例会(アジア学院収穫感謝の日)報告

日時：2024年10月12日(土)・14日(日)

両日 午前9時～

場所：アジア学院

出席者：村田、藤生、原田、鈴木、張の各メン、田村、村田の各メネット、ゲスト：田村有希子コメット他10名。

10月例会は、恒例の「アジア学院収穫感謝の日」へのブース参加でした。「アジア学院」は那須ワイズ活動エリアの中央部に位置し、那須ワイズそしてとちぎYMCAも昔から関りがあります。



今年は「新型コロナ5類移行1年」が過ぎ、数年ぶりの2日開催となりました。両日とも収穫祭を祝う

ような晴天で、とても過ごしやすい気候でした。朝から夕方まで送迎用マイクロバスが運行しており、たくさんの来場者がありました。また私たちの様なブース参加団体、学生・社会人・シニアなどの多くのボランティア、そしてアジア学院生とアジア学院スタッフなど、たくさんの人たちが収穫感謝祭を祝いそして楽しみ、とても賑やかな2日となりました。那須ワイズのブースは例年同様、古着や小物などの「ミニバザー」、収益をユース支援としている「しいたけ昆布」の販売、「リンゴ」や「ジャガイモ」の販売、村田メン宅で取れた秋の草花や木の実、スズメバチの巣(もちろんハチはいません!)など、"豊かな自然からの贈り物、を販売しました。ブースの位置が会場入口近くにあるのも功を奏してか、「ミニバザー」には外国の方(アジア学院は国際色豊かです)も日本の方も、多くの方が来店し、古着も小物もかなりの数が売れていました。



またYMCA国際担当スタッフによるYMCAブースも設け、「マンカラ」というアフリカや中近東・

東南アジアにかけて古くから遊ばれている伝統的(ボード)ゲームの体験会を行いました。ブースの横を通る来場者から「マンカラだ!」という声も多

く聞かれました。たくさん子どもたちが訪れマンカラを楽しみましたが、何で知っているか聞くとその多くが「学童保育でやったことある」とのことでした。

収穫祭は、来場者も参加者も思い思いに楽しんでいる様子が伺えました。来場される方々はアジア学院の収穫祭を本当に楽しみにしており、そしてアジア学院を支えたいと願っている方々だと感じました。また会場のあちらこちらから「久しぶり!」の声が聞かれ、まるで同窓会の様でした。1年に1回だとしてもアジア学院を忘れずに、またその関係を大切にしている感じが感じられました。それだけ魅力のあるアジア学院をワイズとして微力ながら支えていることに誇りを感じました。来年も多くの参加者で溢れることを祈ります。

収益金50,000円を献金した。

販売品の確認等を11日(金)午前9時30分より、田村会長宅で行った。

11・12月第2例会(役員会)報告

日時：10月25日(金)午後4時30分から

11月25日(金)午後4時30分から

場所：田村会長宅

出席者：田村、村田各メン、田村、村田メネット協議事項

1. 10月例会について(反省)

多くのゲストの方々の協力があって、2日間のバザーが成功裏に終了することができた。感謝です。

2. 11月例会について

11月例会を、11月30日(土)午後6時より、西那須野教会にて行う。ユースリーダーと共に、「西那須野地域の子ども食堂について」のお話をお聞きする。ゲストスピーカーは西那須野教会役員の方古川勢子さん。食事の準備は、西那須野教会の古川さんと高久さんをお願いをして、メンバーは、1品持ち寄りとする。

3. 12月例会(クリスマス礼拝・祝会)について

養徳園の方々をお招きして、12月14日(土)午後6時から、西那須野教会で開催する。プログラム作成と印刷は、田村会長。祝会の食事については、田村有希子さんとお友達2人にお任せする。讚美礼拝のメッセージは潘牧師、オルガニストは木村真紀子さんに依頼。平山主事ご夫妻、荒井浩元主事に案内する。ゲーム指導をユースリーダーにお願いする。

謝礼は、潘牧師10,000円。木村真紀子オルガニスト5,000円。田村有希子さん5,000円。お手伝いをいただく2人は2,000円。献金先、アジア学院10,000円、聖園那須老人ホー

ム10,000円、養徳園10,000円。いつもお世話になっている、古川さんと高久さんに10,000円。ユースリーダーの活動補助として、30,000円を贈る。

4. 1月(新年)例会について

1月18日(土)午後6時から「おかしげ」で行う。1年の抱負とお世話になっている方々、潘先生ご夫妻、アジア学院、古川さん、高久さん、田村有希子さん、平山ご夫妻、ユースリーダー等を招待して行う。会費は、5,000円。

5. 2月例会(リーダー報告会)について

リーダーの都合に合わせて行う。調整は、塩澤担当主事をお願いする。できれば卒業するリーダーの参加をしてもらい、記念品を渡す。

6. 能登半島豪雨緊急支援募金について

クラブとして、とちぎYMCAを通して20,000円を献金した。

7. 1月第2例会(役員会)について

1月27日(金)午後4時30分より田村会長宅で行う。内容は、1月例会・2月例会についての打合せ。

開拓と信仰の姿「開拓と西那須野教会」-(1)

会長 田村 修也

日本基督教団栃木地区西那須野教会は、2023年4月に創立130年迎えました。西那須野教会は栃木県におけるYMCA・ワイズメンズクラブの設立に、牧師はじめ役員や会員が、そして、関係団体である西那須野幼稚園、アジア学院、エルム福祉会の理事長、校長はじめ施設を挙げて支援して頂き今日に至っています。

特に、西那須野教会の牧師であり幼稚園の理事長・園長であった福本治夫牧師、アジア学院校長であった高見敏弘先生、エルム福祉会の理事長であった楡井一俊先生には多くのご支援を頂いております。那須YMCAにおきましても、創設間もないエルム福祉会の事務所の一室をYMCAの事務所として提供していただき、現在では、福本光夫西那須野幼稚園理事長・園長経営の那須クリスチャンアカデミーの一室を提供して頂いております。また、西那須野教会には潘炯旭牧師そして役員・会員のご支援を頂いて、例会の会場として使わせて頂いております。

この西那須野教会が、那須野が原という開拓の地で、どのように福音の種を蒔き続けてきたかを、創立者である田嶋家の4代にわたる足跡を通して紹介させていただきます。

西那須野教会は、明治23年(1890年)11月10日、開通して間もない西那須野駅に5人の男

たちが降り立ったところから始まります。この一行は、群馬県の島村から小山経由で来た一行で、先頭には田嶋弥三郎36歳、続いて長男の董16歳、次男の真澄13歳、付き添いで来た妹ヒサの夫源三郎、しんがりには雇い農夫の飯塚庄蔵でした。一行は先ず、那須開墾社第二農場に矢板武社長を尋ねて挨拶し、その日は那須開墾社に泊めてもらい、翌日には印南文作前社長宅が空いていたので、そこを当分の間お借りして、翌日から早速、住宅の建築と開墾に取り掛かったのであります。

旧約聖書学者の大塚という先生が、「聖書の神様は見えない神である。けれども、族長たちの歩んだ道をたどれば、見えない神の姿が見えてくる」とある本の中で書いています。

前史として江戸時代末期及び明治初期について触れさせていただきます。

災害、飢餓、開国

長い間、私には、何故開拓者の方々が、困難にも挫ける事無く、全てを捧げて開墾に取り組むことが出来たのか、納得が行きませんでした。昨年あるグループの依頼で、印南文作の生涯について話す機会が与えられ、その準備を通して私なりの答えを見出しました。そこで本題に入る前に、資料の目次にありますように、前史として、江戸時代末期及び明治初期の状況について振り返って見たいと思います。

一口に言いますと、檀山節考という本を考えてみてください。この本でも明らかのように、日本は口減らしの必要な国、食糧の自給が困難な国だったということです。日本は繰り返し繰り返し、地震、風水害等の災害や冷害をはじめとする気象災害によりまして、絶えず飢餓に苦しめられて来たということです。年表をご覧頂けばお分かりと思いますが、元禄の大地震、享保の大飢餓、浅間山や岩木山の大噴火を一因としての、天明の大飢餓、天保の大飢餓、安政の大地震等々によりまして、数え切れないほどの方々が、飢えで命を落としていきました。そして、体力の衰弱により伝染病の流行蔓延が追い打ちをかけました。元禄、宝暦、天明、天保の大飢饉は、旧幕時代の4大飢餓と言われています。(以下次号へ)

西那須野幼稚園だより

学校法人 西那須野学園

西那須野幼稚園

園長・理事長 福本 光夫

10月28日、29日と全国園長研修会に参加しました。私は、来年度の幼保連携型認定こども園への移行を控え、分科会は、「0.1.2歳児の保育・

教育を考える」に参加しました。いくつかの園の事例発表のなかで、かおり幼稚園鮎川剛園長の報告がこの頃、感じていることと同じでした。

「0. 1. 2歳児を始めて3年ほど経過した時、在園期間が長い子ども(低年齢から入園した子ども)ほど、難しい子どもになっている傾向に気がつきました。とりわけ0歳児から入園した園児のなかで『このころの育ちに問題がある』と思われる子どもが、かなり高い割合で存在しました。

- ・他者との関係性が築けない
- ・自分の興味あることにしか反応しない
- ・攻撃的
- ・保育者を敵だと思っている・・・etc.」

どのような保育をしていたかという、各保育教諭が、全ての子ども達と満遍なく係わる保育をしていたとのこと。裏を返せば、一人ひとりとの関係性が薄い保育です。

そこで、「担当制」を取り入れ、「①おむつの交換、②食事の介助、③午睡の添い寝は、特定の保育者が特定の園児に対して行う」ようにしたそうです。

保育のやり方を変えた結果、「担当制を導入しても1歳児はかみつきますし、ケンカもします。しかしながら、2歳児、3歳児と進むうち、担当制前と後では子どもの様子が大きく違っていました。担当制を経験した子どもの方が明らかにやさしく、社会性のある子どもに育ってきました。そして、保育教諭のモチベーションが上がったというおまけもつきました」と報告されました。

これは、子どもと保育教諭の数は同じでも、取り組み方によって、育ちが明らかに違ってしまうということです。

親の子育ては、赤ちゃんに対して1対1の関わりで、24時間対応で大変濃いものです。赤ちゃんがおなかをすかせたら、すぐに対応してくれます。排泄も同様です。愛着(アタッチメントの形成の土台)ができます。少なくとも生後1年間は、親がみる(1対1)ことにはかなわないというのが定説になっていますが、日本の配置基準は貧困です。0歳児では3対1、1歳児は6(5)対1ですので、担当制という工夫が必要とのこと。

そして、自己肯定感の基礎である愛着形成は、必ずしも親だけではなく、他人の保育教諭でも担えることがわかっています。次年度からの幼保連携型認定こども園への移行にあたっては、これらを留意していきたいと考えます。愛着は社会への絆だからです。

しかし、保育施設では1対1対応はできません。つまり、保護者の皆様にはかないません。日々のお子さんとの関わりが、子どもの心の安全基地になり、

子どもが安心して社会に踏み出す力になります。甘えにも応えて下さい。愛着が形成される過程は目に見えません。しかし、お子さんの一生を支えていく宝物になります。

聖園那須老人ホームたより

社会福祉法人 イースタービレッジ
那須聖園老人ホーム
施設長 薄井 高宏

朝晩の冷え込みが、身に染みて秋深まる今日この頃、皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。

6月からはじまりました個人契約入所ですが、幸いにもご好評をいただき、入所される方も増えて参りました。施設定員内で空きベッドを利用できる制度ですので、入所をご希望の方は、もう少し空きがありますので、お早目のご相談をお勧めします。

私事ではありますが、私は、地域貢献の一環として認知症サポーター養成講座の講師を行っております。先日、那須町役場の新規採用者向けの講座の際、那須町の現状をお話致しましたが、今年4月時点で那須町の高齢化率が43%を越えました。この先もこの数字は伸び続けると思われます。来年は2025年問題の年に突入する事もあり、今後の国のあり方が、今までよりも更に厳しくなってきます。これまでできていた事が、人的にも金銭的にもできなくなってくる事は明らかですので、残すものと廃止するものの取捨選択をこれから迫られます。

願わくば、世界に誇る長寿国の日本の施策が地域に根差した高齢者に優しい社会に向かうよう祈らずにはられません。

新しい施設に建替わるにあたり

聖園那須老人ホームでは、新しく個人契約入所を開始したいと思います。この制度は、生活にお困りの方々に住宅を供給する観点からのサービスで、措置入所で必要な条件や入所判定委員会の意見、市町の決定がなくても施設と入所を希望する方との契約で入所できるサービスです。契約にもいくつか条件や料金の違い、サービスにも違いがありますので、ご興味のある方は、下記連絡先までお問い合わせください。

また、新築にあたり、ご寄付も募っておりますので併せてご連絡ください。

タオル寄付のお願い

聖園那須老人ホームでは、入所者の方々が生活する中で、様々な場面で使い切りの布（タオル）を使用しています。つきましては、皆様には、タオルの寄付をこれまで同様お願いできれば幸いです。

- ・新品、未使用、使用後は問いません。
- ・ハンドタオル、フェイスタオル、バスタオル、タオルケット等大きさも問いません。
- ・御年賀やご挨拶で頂いた物、未開封、開封後等問いません。
- ・切断や洗濯、消毒はこちらで行います。

YMCAだより

お休みしました

ユースリーダーのつぶやき

1. 名前（リーダー名） 2. 学校名 3. 出身地 4. YMCAに入ったきっかけは？ 5. 思い出に残った活動とその理由は？ 6. 今後の進路は？ 7. YMCAに一言

お休みします